

このコーナーでは、地球温暖化を防止するため、私たちにもできる7つのチャレンジを毎月1つずつご紹介します。

5回目のテーマは『地産地消に取り組もう』です。

皆さんは『地産地消』という言葉を聞いたことはありますか。

『地域でつくられたものをその地域で食べる』という意味で使われる『地産地消』。新鮮な食品をそのまま消費者へ届けることができたり、消費者の地域への愛着が深まったりすることが期待できると同時に、温室効果ガスの削減も期待できる、立派なエコ活動でもあります。



あなたもできる 7つのチャレンジ

防ごう地球温暖化

～今月のチャレンジ 地産地消に取り組もう～

地域で生産したものを地域で消費すると食品を輸送する距離が短くて済みます。

そうすると輸送に使う燃料などのエネルギーを節約することができ、温暖化防止に役立つのです。

一年中、豊富な食品に恵まれる北海道では、とても身近で取り組みやすいエコ活動ではないでしょうか。環境に優しく、お腹も満たされる『地産地消』。ぜひチャレンジしてみてくださいね。

今月の電力需給見通し

(北海道電力(株)提供)



十分に供給余力を確保しています



北海道は、冬季に電力需要がピークを迎えます。

引き続き、節電にご協力ください

※3月までお知らせします。

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別手話の会

『登別手話の会』は、耳の不自由な方とコミュニケーションを図ることを目的に、昭和50年10月に結成されました。現在、会員は約30人。毎週火曜日の18時30分から20時30分まで、市民会館に集まり、手話の練習を行っています。

「耳の不自由な方にも講師をお願いし、交流を楽しみながら手話の練習に励んでいます。手話でどう表現したら正確に伝わるか、相手によっても異なりますので、実際に耳の不自由な方と交流することで違いを学ぶことができます。手話の学習には終わりがありませんので、会員の皆さんには長く手話を続けてほしいです。」と話すのは、代表の村井美保子さん。



▲手話の練習に励む会員の皆さん

耳の不自由な方との交流も楽しみながら、手話の練習に励んでいます

会では、ふれあいフェスティバルや図書館まつりなどで手話講習や手話歌を行い、市民に活動をPRしているほか、耳の不自由な方がたの団体や近隣市町の手話サークルなどと合同で花見やクリスマス会を行い、親睦を深めています。昨年11月に入会した今野麻衣さんと池上智美さんは、「手話をじっくり学んでみたい」と思い、入会しました。入会後すぐ手話の基本を丁寧に説明してくれるなど、会の皆さんは優しく話しやすい雰囲気です。楽しみながら、手話を覚えていきたいと思いと話し合ってくれました。

入会を希望する方は、登別市ボランティアセンター(☎2080)まで。